

甲南大学グリークラブ 部員ゼロからの復活劇

甲南大学グリークラブ・運営アドバイザー 松本一樹

甲南大学グリークラブ(神戸)は、1951年創部の男声合唱団。しかし、コロナ禍で活動が停止、2021年春には部員がゼロになってしまいました。その後、関係者の懸命の努力で、1年後に混声合唱団として再出発、わずか6名ながら頑張っています。松本一樹さんがレポートしました。本稿は抜粋です。オリジナルは「[シュンボシオン](http://rkato.sakura.ne.jp/music/m180_kounandaigaku_glee.pdf)」をご覧ください。

http://rkato.sakura.ne.jp/music/m180_kounandaigaku_glee.pdf

甲南大学グリークラブ

甲南グリーは大学創立の1951年に立ち上げられた、学内で最も歴史あるクラブのひとつで、昨年は創部70周年を迎えました。毎年リサイタルや他大学とのジョイントに加えて、演奏旅行や関西六大学合唱演奏会(関西六連)の一員にも名を連ねていました。技術顧問松原千振、常任指揮者西牧潤、ヴォイストレーナーにプロ音楽家の嶋本晃を擁し、大学合唱団として特色のある活動を続けてきました。

近年は部員数10~20名程度、少人数アンサンブルの活動が続いていました。甲南大学特有の気質とでもいうか、グリークラブもどこかのんびりした雰囲気は昔と変わらず、マイペースな部員が多かったようです。コロナ直前から新歓活動で思うように成果がでず、10名以下での活動を余儀なくされていました。そこへこのコロナ禍です。2020年度は一度も本番がなく、4人の4年生が卒団、残るは3年と1年が1人ずつとなりましたが、その2人もとも退部してしまいました。

再生へのプロジェクト、その過程での大きな問題

ゼロから再出発しましたが、大きな問題が二つありました。ひとつは、大学内でのクラブの取り扱いについてです。

大学にクラブ活動を認可されるには、指定の役職に部員を選出せねばなりません。つまり、部員ゼロではここをクリアできず、クラブ活動を承認してもらえません。ただし、**休部**という扱いにより1年間は猶予を与えられるので、即刻廃部ということにはなりません。ですが、1年で新入部員を獲得ができなければ、いよいよ廃部も現実味を帯びてきます。

そしてもうひとつの問題は新入生の勧誘です。現役がいないので、学内での勧誘は不可能。となれば、SNSなどのオンラインで広報するしかありません。そこで休眠状態だったTwitterとFacebookの公式アカウントを稼働させ、広報を開始しました。同時に、OBと新歓チームを結成し、広報や新歓企画の意見

交換などを手伝ってもらいました。また、対面での新歓活動ができないことからオンラインツールの充実をとZoomの有料アカウントを取得しました。これはOB合唱団の甲陵会合唱団に全面的に資金援助をしてもらうことで可能になりました。これは現役・OB双方が使えるツールとして、現在も大変役立っています。

こうして広報のハード面は目処が立ちました。次はソフト、つまり、どのような内容の情報を発信するか、ということです。そこで、一目見ればグリークラブをある程度理解してもらえるよう、新歓用のデジタルパンフレットを作成し、SNSで発信しました。こちらからは何もアクションを起こせませんが、もし興味を持ってくれる学生が現れた場合、そのパンフレットを見てくれさえすれば先に繋がる可能性は大きくなります。

次に企画したのが、Zoomでのオンライン新歓です。手始めに、オンラインクラブ説明会を企画しました。クラブの歴史、学内外でのグリークラブの位置付け、年間活動スケジュールなど、新歓パンフレットを深掘りする内容です。

1人の男子学生との出会い

ちょうどその頃、1年生の男子学生が興味を持ってくれて、コンタクトを取れるようになりました。ひとまず彼のためだけにでも企画を開催できればと声をかけたところ、オンライン説明会に参加してくれることになりました。説明会当日はオンライン上とは言え、何人もの大人を相手にさぞ緊張したでしょうが、西牧潤と共通の趣味(鉄道)が判明するというミラクルも起こり、とてもいい雰囲気です。

それからは、ひたすらこの彼のために新歓イベントを企画していったと言っても過言ではありません。オンラインヴォイストレーニング、近隣大学の合唱仲間にも協力してもらっての体験練習会、そして西牧・嶋本両氏による対面での練習と、飽きさせまい、取り逃がすまいとそれこそ必死のバッチでイベントを企画し、実行しました。その間にも、ほかの学生に広報するため各イベントのデジタルチラシを情報発信しました。

その結果、9月、ついにその男子学生が入部を決意してくれました！ 入部しても部員は彼1人、しかもまだ1年生。よく決心してくれたと思います。入部式の様子はZoomを使ってOBにも公開し、たくさんの先輩方が彼の入部を祝福してくれました。

“0”と“1”とは全く違う！俄かに動き出したクラブ活動

そしてここから、一気に色々なことが動き出します。まずは休部状態だった学内での取り扱いが、彼が1人で必要な役職全てに就いてくれたことで、クラブ活動再開が正式に認可されました。これにより、漸く学内の教室や施設での練習が可能になりました。

また、常任指揮者・西牧潤が同じく指揮している神戸学院

大学混声合唱団パンドラの定演への友情出演も決まりました。部員1人で合唱にならないこちら側の現状と、男声が少ないため1人でも男声を欲していたパンドラの思惑とが合致したことよるところも大きかったのです。

こうして、後期からは男子部員1人のための練習を学内で実施しつつ、彼が単身で神戸学院大学へ出稽古に行く、という日々が始まりました。12月、迎えたパンドラ定期演奏会では、結局全ステージに出演させて頂き、本人にとってもパンドラのみなさんにとっても、大変価値のある機会になりました。

次のチャンスに向けてチャレンジは続く

年は明けて2022年。ある程度の道筋は見えてきたものの、部員はたった1人。合唱できない状況を打開すべく、広報ツールの更なる充実を図ります。男子部員のアイデアにより、YouTubeチャンネルを開設したのです。更新不定期、ネタもノンジャンルゆる〜いスタンスでとだけ決めて、思い付くままに企画を発案し、また『これは使える!』と思ったらとにかくカメラを回しておいて、あとは編集、公開...という新たなルーティーンが加わりました。新年度が始まるまでに、すでに数本のYouTube動画を公開している状態で、来るべき新歓に向けて大きな武器を手に入れました。

そしてこの4月、対面での新歓活動が3年振りに実施されるとあって、無理なく効果的に新歓が進められるよう、対面、SNS両面での作戦も念入りに練りました。また新歓イベントで演奏する機会もあり、今回も近隣大学に友情出演してもらい、リアルでの演奏を聴いて頂くこともできました。

結果、この春は何と一気に4人の新入部員が入部してくれたのです!!



その内訳も女声3人、男声1人で、各パート1人ずつではありますがきちんと4パート揃うことになり、部員ゼロになってから僅か1年で、正真正銘の混声合唱団としてスタートを切りました。5人全員が揃った最初の練習こそ常任指揮者のもとで実施しましたが、以降は部員のみでの練習も自主的に開催し、運営の役割分担も進めていたり、手がかからなくなりました。

混声合唱団として活動を始めた甲南グリー、そこには思わぬ効果も表れました。甲南大学でかつて活動していた女声合唱団アモローゾのOGのみなさんが当時の本番衣装のスカートで、女子メンバーにと提供して下さったのです。鮮やかなえんじ色で

ベルベットの上品なスカート、受け取った本人はとても気に入っており、私たちOBにはとても懐かしく感じるもので、**新生甲南グリー**の存在に希望の眼差しを向けてくれるのはOBだけではない、と感じられた出来事になりました。

ちょっとここで宣伝...

甲南大学グリークラブは、2022年9月18日(日)、**創部70周年記念演奏会**を開催します。現役のステージも予定しており、これが混声合唱団になってから初めての演奏になります。夏休み中に入部した女子1人を加え6人で出演します。収容2千人のホールで、たった6人で演奏する現役グリークラブ。そんな彼らの背中をみなさまに押してもらいたく、また**甲南大学グリークラブ**の新たな歴史の第一歩を歴史の証人として是非みなさまにもお立ち会い頂きたく、ここに宣伝させて頂きます。

甲南大学グリークラブ 創部70周年記念演奏会

・2022年9月18日(日) 開場13:00/開演13:30

・神戸国際会館こくさいホール

《第一部》70周年を振り返る思い出のステージ

『秋のピエロ』『最上川舟歌』『ワクワク』ほか

《第二部》松本望『二つの祈りの音楽』

〈男声合唱と室内アンサンブルのための〉

現役グリークラブステージ『Abschied vom Wald

(緑の森よ)』『アマビエ』『未来へ』ほか

上田真樹『若き日は燃えて』

さいごに

他の大学合唱団でも、部員数が減少し、本番のみならず日々の活動すらままならない状況がいくつも存在しています。大阪の**梅花女子大学合唱団**は、今年の春、部員ゼロとなってしまいました。現在、OGがSNSを中心とした勧誘活動を続けており、学内での演奏機会も予定されているとのこと。梅花女子大学にも歌声が戻ってくることを切に願っております。

私がこのクラブの再生に携わって感じたことは、OBのみならず、大学関係者・関係団体、近隣の合唱仲間といった多くの人たちが本当に親身になって心配して下さり、様々なかたちでご協力くださったことで、決して我々は孤独ではないのだ、ということでした。SNSの管理をしていると、全国の仲間や合唱団が応援してくださっていることが分かり、大きな心の支えになりました。

一方で、合唱団の運営に行き詰まり、外への発信力を維持できないところもまだまだ多く存在します。

コロナ禍で直接的な支援がさらに困難になった現状、そのような合唱団を拾い、発信の手助けができる可能性もSNSなどのツールには秘められている、とも感じました。

甲南グリーがみなさまから享受したご恩を、どのような形でお返しできるのか。これからはそのことも銘肝し、活動を続けていきたいと思えます。

〔了〕